

東京支部会務報告（平成20年9月～21年9月）

■ 平成20年9月30日(火)

高田高校にて、在校生向けに、第2回「未来展望セミナー」を開催。

- ・対象：高校2年生全員に「総合学習の一環として実施。
- ・講師：大滝英二(高24回)、霜越隼人(高32回)、矢野幸子(高43回)

■ 10月25日(土)

東京支部会報『雪椿』第32号を発送。

- ・特集Ⅰ「わが恩師よ」
- ・特集Ⅱ「バドミントン部」

■ 11月8日(土)

来年度に初めて実施される高校2年生の「オープンキャンパス企業訪問」について、高校側と打合せ。

- ・高田高校：草間俊之校長、羽豆一秀教諭（進路指導部）
- ・東京支部：佐久間支部長、柴田幹事長、風間幹事

支部長より訪問候補企業（校友関係）リストを提示。

■ 11月8日(土)

東京支部「組織強化3カ年計画」プロジェクト・チームが初会合。

- ・PTリーダー：上野幹事
 - ・補佐・事務局：三村到・佐藤恵子幹事
- 討議には、経理・財務担当主査高橋稔幹事、広報主査高橋誠幹事、事業活動主査渡辺千恵美幹事ら16人が参加。

■ 11月30日(日)

高田高校校舎改築記念事業第5回(最終)拡大実行委員会が、高田・高陽荘にて開催され、支部から檜野副支部長、柴田幹事長が出席。

- ・10月19日を以って募金活動終了
寄付金総額約1億9千万円（目標額ほぼ達成）
- ・「合宿所」は、平成22年3月着工、落成記念式典は、平成22年11月末を予定。

■ 平成21年1月17日(土)

第45回記念高田高校校友会支部総会について、関係役員・評議員が、最初の打合せ会を開く。

記念総会のイベントとして、NHK大河ドラマ「天地人」の原作者火坂雅志先生の講演、高田高校祭「大景品抽選会」を決定。

■ 1月19日(月)

高田高校東京支部のメルマガの、創刊号を刊行。

校友会情報や、ふるさと情報を月1回ペースで編集。校友間の親睦を深める画期的な試みとして、期待が大きい。

■ 1月24日(土)

東京支部平成20年度第2回役員会開催。

「オープンキャンパス企業訪問」への全面協力体制を検討。

「組織強化3カ年計画」のPT活動の立上げと協力依頼

「第45回東京支部総会・懇親会」の企画を説明等

■ 佐久間支部長（柴田幹事長・上野幹事）と中堅・若手校友とが懇談会

校友会活動の意義について語り合い、支部長自ら総会等への積極参加を勧誘（於アルカディア市ヶ谷）。

- ・ 2月15日(日) 高40回生7人が参加
- ・ 3月10日(火) 高41回生8人が参加
- ・ 4月22日(水) 高38回生14人が参加
- ・ 4月28日(火) 高44回生7人が参加
- ・ 5月29日(金) 高42回生6人が参加

■ 2月21日(土)

第45回記念高田高校校友会支部総会、火坂雅志先生講演会について、当番年次役員・評議員打合せ。

今年は、高11、21、31、41回生が、年次当番。

■ 3月16日(月)

高田高校卒業式の前日、支部から高校に出向いて、卒業生に対して、校友会東京支部の紹介、大学生校友の勧誘を実施。今回で4回目。岡村博己評議員(高10回)、真理子シャイフェレ幹事(高21回)が担当

■ 3月28日(土)

東京支部平成20年度第2回役員・評議員会開催。

「オープンキャンパス企業訪問」の準備状況

「組織強化3カ年計画」の年次担当者へ

協力要請

「第45回東京支部総会・懇親会」の準備状況の説明 等

■ 6月19日(金)

「第45回東京支部総会・懇親会(高田高校祭)」を開催。

支部会員676名、来賓を含め総勢686名という記録的な参加者。30、40歳代の参加が去年と比べ倍増するなど、組織の若返りが見られた。記念イベントの大抽選会も大いに盛り上がった。

先立って行われた火坂雅志先生による「天地人を語る 直江兼統の義と愛」と題する講演も、520人を超える聴講者を集め、期待通り内容の濃いものとなった。

役員改選で、6年間幹事長を務められた柴田武弘さんの退任、上野幹事長の新任などが了承されたほか、支部規約の改正が了承された。

■ 7月11日(土)

高田高校校友会本部総会が高田の「やすね」で開催され、東京支部から佐久間支部長、上野幹事長、加藤福子監事、久島士郎幹事、白倉善積評議員の5名が出席。

合宿所建設のスケジュールなどについて説明があった。加藤、久島、白倉各氏は『雪椿』の取材「天地人の舞台」の探訪取材も実施。小林外吉顧問も取材に同行。

■ 7月25日(土)

東京支部平成21年度第1回役員会開催。

「第45回東京支部総会・懇親会」の実施

報告と反省

「オープンキャンパス企業訪問」の最終準備報告と協力要請

「組織強化3カ年計画」の1年目の結果報告 等

■ 7月29日(水)、30日(木)

高田高校2年生、首都圏で初の「オープンキャンパス企業訪問」を実施。校友の紹介などにより44の企業・研究機関が受け入れた。310余名の生徒が8人ほどのグループ毎に分かれて“社会”を実体験。先輩校友

の活躍ぶりを知る機会ともなり、「生徒から『強い刺激を受けた。きわめて有意義だった』との感想が多く聞かれた」との報告が、学校から寄せられた。

■ 9月26日(土)

東京支部平成21年度第1回役員・評議員会を開催。

第45回記念総会の総括や支部活性化プロジェクトの1年目の結果報告が行われ、今年度への取組みの方針を協議した。

柴田幹事長を送る

今年6月の総会で、柴田武弘幹事長がその職を上野新幹事長に譲り、副支部長に就任された。平成15年度から6年間、二人の支部長に仕えた。歴代の幹事長をみても、6年もの在職者は、ごく限られている。

東京支部の幹事長は激務である。総会(高田高校祭)の企画・運営はもとより、延べ年4回の役員会及び役員・評議員会を切り盛りする。また、年10回程度に及ぶ編集会議に出席し、大所・高所からアドバイスする。合間には、新評議員をスカウトすべく電話攻勢をかける。最近では、「東京支部の活性化」策の一環として、若手会員との懇談会設営にも大きなエネルギーを割く。

柴田幹事長の最大の功績は、その懐の深さと先見の明にある。

私ごとだが、「40回記念総会」大盛況の記憶がまだ新しい4年前、あえて若手有志で「東京支部のあり方検討委員会」を立ち上げたことがある。慎重論も強かった中、その動きを潰さずに見守り、育ててくださったのは、幹事長だった。それが今日、未来展望セミナーや卒業生向けの東京支部PR、学生への会費減免制度、HPの充実やメルマガの発行などとして結実し、支部の活性化にもつながるものとなった。

柴田幹事長、本当にお疲れさまでした。引き続き、副支部長として我々をご指導いただきよう、お願いします。とはいえ、顧問すら「こき使う」のが東京支部である。まだまだゆっくりはできませんよ。お願いします。高橋 誠 (高26回)